

優秀賞

Delphi/400で確認業務の効率化

為国 順子 様

ベネトンジャパン株式会社
IT システム Div. チーフ



ベネトンジャパン株式会社
<http://www.benetton.jp/>

1982年の市場参入以来、多くの日本人に愛用されるベネトンブランド。1987年には、日本ならではの多様なニーズに応えるべくライセンス事業にも着手。世界有数のアパレルブランド「UNITED COLORS OF BENETTON.」や「SISLEY」を擁し、トレンドに敏感なイタリアンカジュアルを全国の店舗にて提供している。

業務課題

複数のシステムを連携して運用している。その連携が正しく行われているかどうかのチェックを、ユーザーが利用している数値項目の一致で確認していた。ただし自動化されておらず、手動による作業であったため時間がかかっていた。また、一致の確認という地味な作業であるため、作業意欲がわきにくい側面もあった。

技術課題

従来は、2つのシステムの情報をExcelに手入力し、計算式による比較結果をExcelに表示させて確認していた。この理由は、利用する資料が複数あり、かつ項目も多数あったのでフレキシブルなExcelが適していると考えたからである。しかし、利用する資料がExcelであったりクエリーの結果であったりするので、統合した画面を作成するためのベースとしてDelphi/400を活用し、

Excelからの数値取り込みを自動化できないかが技術的課題となった。

技術課題の解決策

Delphi/400の利用により、IBM i上のデータについては取得できるが、Excelの情報取得のために、取り込み先フォルダをルール化してプログラムでフォルダ名を作成するようにした。【ソース1】

業務課題解決と効果

数値チェック画面で、数値チェック開始ボタンを押すだけで、ExcelとIBM i側のデータを取得して結果を表示するようになったので、作業が1クリックで終了できるようになった。従来は資料を開いて該当箇所を探し、また確認用Excelの入力位置を出して入力ということをいくつかの項目について行うため、少なくとも15分はかかっていたのだが、数秒で終わるようになり作業効率が大幅に向

上した。また、精神衛生上もよくなった。
【図1】

M

ソース1

```

procedure TfrmProc019.Button1Click(Sender: TObject);
var
  dif1, dif2, dif3, dif4, dif5, dif6 : Integer;
begin
  //Rnkのレポートを読み込む////////////////////////////////////
  Today := Date;
  DecodeDate(Today, y,m,d);
  sFolder := Copy(DateToStr(today),1,4) + Copy(DateToStr(today),6,2)
            + Copy(DateToStr(today),9,2);

  // 当月の日数を取得
  EndOfMonth := IncMonth(Today,1) - d;
  DecodeDate(EndOfMonth, y,m,d);

  if edit1.text='0' then
  begin
    // * レジ集計表
    FName := CommonDM.iniDailyCheck1 + '¥'
            + sFolder + '¥regishukei.xls';

    // Showmessage(FName) ;

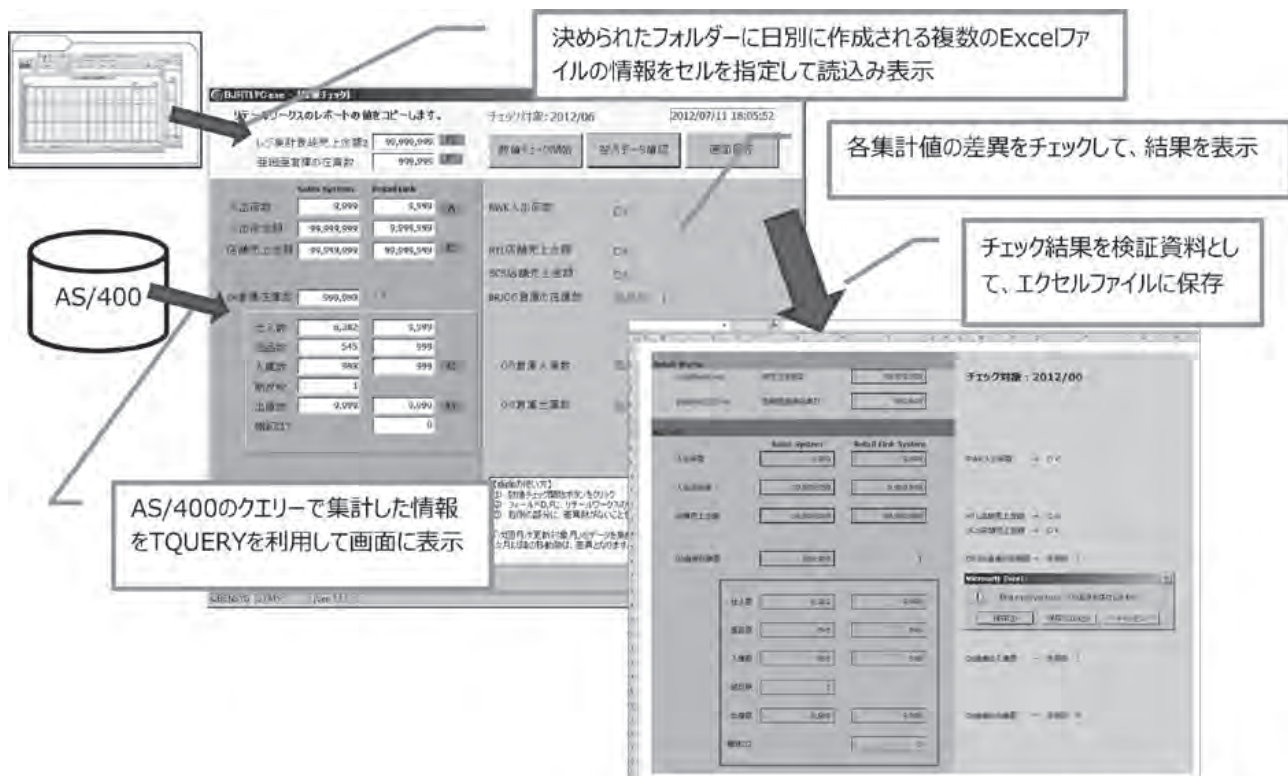
    Excel := CreateOleObject('Excel.Application');
    // Excel.Visible:=True;
    Workbook := Excel.WorkBooks.Open(FName);
    Worksheet := Workbook.WorkSheets['全店舗計_01'];

    i := d + 12;

    Edit1.Text := Worksheet.Cells[i,15].value;

    Workbook.close;
    Workbook:=unAssigned;
    Worksheet:=unAssigned;
    Excel.Quit;
  end;
end;
  
```

図1



MEMO